

貴重なスーパーカーが一堂に集結！

11/22(金)よりお台場で展示イベントを開催！

「フェラーリ vs ランボルギーニ in ヴィーナスフォート」

フェラーリのスペアチーレモデル“ENZO”や“288GTO”,ランボルギーニ社幻の車“イオタ”などが勢揃い！

お台場ヴィーナスフォートでは、11/22(金)～12/1(日)まで、フェラーリおよびランボルギーニの貴重なスーパーカーを館内展示するイベント「Ferrari vs Lamborghini in VenusFort」を開催いたします。同期間中に東京ビッグサイトで開催される「東京モーターショー2013」にちなんだ企画で、お台場をより一層盛り上げます。フェラーリからは“ENZO”や“288GTO”など希少なアニバーサリーカーを、ランボルギーニからは“イオタ”や“アヴェンタドール”などの12気筒エンジンを集め、ここでしか見ることのできない豪華なライアップとなっています。その他にも、ヴィーナスフォート館内ではイルミネーションをはじめ、様々なイベントやフェアを開催中です。ぜひご取材頂きますよう、宜しくお願い申し上げます。

■ Ferrari vs Lamborghini in VenusFort

フェラーリ、ランボルギーニの貴重なスーパーカー(計8台)を集めた展示イベントを開催いたします。

※展示車両、車両カラーは変更となる可能性がございます。

日時：11/22(金)～12/1(日) 11:00～23:00 ※ヴィーナスフォートの営業時間に準じます。

場所：ヴィーナスフォート 2F ブロードアヴェニュー/オリーブ広場/中央階段前

料金：無料



【展示予定車両詳細】

フェラーリ

■ ENZO(エンツォ)・・・フェラーリの創業 55 周年を記念して作られた 21 世紀最初の限定生産車種(スペチアーレ)



フェラーリの超高性能モデルを“スペアチーレ”と呼ぶことがあるが、そのスペアチーレの系譜を継ぐモデルとしてエンツォ・フェラーリは 2002 年にデビュー。限定数は F50 より少しだけ増えたものの、それでも 399 台という限定モデルである。「公道を走ることのできる F1 マシン」という F50 で初めて持ちこんだコンセプトは、このエンツォ・フェラーリでさらに徹底され、ロードゴーイングカーの常識にとらわれないレーシーなスタイリングになっている。完成度の高い空力ボディは、低速域から高速域では強烈なダウンフォースを生みだし、タイヤを通じてハイパワーを効果的に路面に伝えていく。そしてさらにその先にある超高速域では適度なレスダウンフォース方向に働いていき、超高速走行をアシストしてくれる。

エンジンは 5998ccV12 気筒 DOHC のノンターボ。660hp/7800rpm というパワーはもちろん驚異的だが、その一方で低回転域からトルクフルな設定で、最大トルクは 67kgm/5500rpm。電子制御式のショックアブソーバーやカーボンブレーキなど、装備も F1 並みである。公表されている最高速は 350km/h。

■ 288GTO・・・272 台限定生産のスペシャルモデル



288GTO は 1984 年のジュネーブショーでデビューしたフェラーリ最初の Special モデル。正式な名称は“フェラーリ GTO”だが、250GTO と混同しないように 288GTO と呼ばれるようになった。288 はエンジンの排気量と気筒数を示しており、つまり「2・8 リッターの 8 気筒」を意味している。さらに GTO とは GT+ホモロゲーションの略称。当時のレースカテゴリー・グループ B のホモロゲーションを獲得するために開発を進めたのが、この 288GTO である。つまり量産車というよりは生粋なレーシングカーとして誕生した。だが、レースやラリーでデビューを果たす前に、レギュレーションそのものが大きく変更されてしまい、実際に 288GTO の雄姿をモータースポーツでは見ることはできなかった。

軽量化のために当時としては先進の樹脂パーツを多用しているのも 288GTO の特長。エンジンは約 2588ccV8DOHC で、フェラーリの V8 モデルでは初のツインターボを搭載し、400hp/7000rpm を発生する。

■ F40・・・フェラーリ創業 40 周年を記念して作られた当時世界最速の市販車



わずかに 5 台作られたコンセプトモデルの“エヴォルツィオーネ”で開発がすすめられ、フェラーリ社 40 周年のメモリアルモデルとして 1984 年にデビューしたのが F40。288GTO の後継車という位置づけでもある。F40 は先代の 288GTO と比べてひと回り大きい(4538mm×1970)。それにもかかわらず 288GTO に比べて約 60 kg の軽量化にも成功している。チューブラーフレームのシャシーに、カーボンコンポジットのパーツを特殊な接着剤で張りつける方法で、高い強度を確保しながら、大幅な軽量化が達成できた。エンジンは熟成の進んだ V8DOHC で、排気量は 288GTO よりもアップした 2936cc。またツインターボのターボチャージャーにはインタークーラーが追加された。最高出力は 478hp/7000rpm。公表されている最高時速は 324km/h に達する。1992 年に生産を終了するまでに 1311 台が造られた。

■ F50・・・創業 50 周年を記念して作られたスペシャルモデル



フェラーリ社 50 周年記念モデル。その為 F50 と名づけられたのだが、お披露目は 50 周年よりも 2 年早い 1995 年のジュネーブショー。F40 で膨大なバックオーダーを抱えてしまった反省と世界的な景気の減速期にあたってしまっていたため、F50 は生産数をあらかじめ 349 台に限った。武骨で荒々しい F40 に比べて、F50 はとても洗練された優美なデザインになっている。とはいえ F50 は、フェラーリ社の持つレーシングテクノロジーを惜しむことなく投入された「公道を走ることが許された F1 マシン」と評価される“超”スーパーレーシングマシンだ。曲面で構成されるボディラインは当時の最先端のエアロダイナミクスを駆使していて、大小の開口部がボディのいたるところに用意されている。F50 のボディデザインは、単に美しいだけでなく、各部の冷却や放熱にも非常に気を遣った機能的なデザインでもあるわけだ。エンジンは 1989 年に F1 で使用された自然吸気の V12 エンジンを、ロードゴーイングにも向くように進化させたもの。排気量 4698cc の V12 気筒・5 バルブ DOHC で、520hp/8000rpm を発生し、ゼロ→100km/h は 3.87 秒、最高速度は 325km/h と発表されている。

ランボルギーニ

■JOTA(イオタ)SVR・・・1969年に1台だけ製造されたスーパーレアカー（※展示車両はレプリカです）



その特異な成り立ちと数奇な運命から、スーパーカー最大のミステリーとされているイオタ。こうして展示されることはとてもレアなケース。ランボルギーニのテストドライバー、ボブ・ウォレスの発案により、事故車のミウラをベースに、当時の F レースレギュレーションに合わせ 1969 年から 1970 年にかけて製作された。シャシーに大幅な軽量化と剛性アップが図られ、サスペンションも新たに設計された。ボディは軽量なアルミ製。エンジンは圧縮比をアップしカムプロファイルの変更などにより 440PS を発揮していたという。またミウラの特徴でもあったポップアップ式のヘッドライトが埋め込み式に変更されている。しかし、イオタは実際レースに参戦することはなく、完成後諸々の社内テストに供され、ミウラ S、SV を開発するにあたっての貴重なデータを残したといわれている。

■カウンタック LP400S・・・日本のスーパーカーブームの火付け役



カウンタックが市販されたのは 1974 年。デザインは、ミウラのデザインにも関わったベルトーネのマルチェロ・ガンディーニが手がけた。ウェッジシェイプの考え方を、ぎりぎりまで追求した面と線との融合は、近未来を予想させるに十分で、縦に跳ね上げる独特のドアも、その後のランボルギーニのアイデンティティとして育っていくことになる。この LP400 は 1978 年にデビュー。もとはといえばカナダの石油王のウォルター・ウルフのためにチューンナップした初代のウォルター・ウルフタイプが、LP400S のプロトタイプとして生かされたといわれている。市販された LP400S は、排気量こそ LP400 と同じ 3929cc だったが、各部に改良が加えられ、途中でボディラインそのものの変更を受けるなど、合計 237 台の LP400S は、造られた時期によって、詳細がかなり異なる。

■ムルシエラゴ・・・ディアブロの後継車種となるフラッグシップスポーツカー



ムルシエラゴは 2001 年のフランクフルトショーでデビューした。それはランボルギーニ社がアウディの傘下になって初めてのニューモデルということも関係している。デザインはランボルギーニ社内で進められた。先代のディアブロよりも、むしろ先々代のカウンタックのイメージに近いものだった。しかも空力特性も最新の理論に基づいていて、カーボンを多用したボディ構造は、軽量で安全性にも優れている。ムルシエラゴは 2001 年から 2010 年までの間に 4099 台造られている。

エンジンはディアブロが積んでいたのと基本設計が同じ 60° V12 気筒を、6.2 リッターまで排気量アップ。電気系統などを大幅に見直した LP640 からは 6.5 リッターに排気量はさらに増す。この LP640 の最高出力は 640PS/8000rpm で、2006 年に発表した限定車の LP640 スーパーベローチェでは、最高出力は 670PS にも達している。展示車両はムルシエラゴの最終モデルである LP670SV。

■アヴェンタドール・・・2010年に生産終了したムルシエラゴの後継車種



アヴェンタドール LP700-4 Roadstar(22日～24日まで展示)

アヴェンタドールは 2011 年 3 月のジュネーブショーが事実上のワールドプレミアだった。車名の由来は、かつて勇猛をほこった伝説の闘牛にちなんでいる。また LP700-4 の“700”とは、700PS/8250rpm を発生するエンジンパワーを示す。現在のランボルギーニ社のフラッグシップモデルである。近未来的なウェッジシェイプデザインと跳ね上げ式のドアを踏襲しながら、エレガントで、しかも荒々しいデザインは、実は空力マシンとしても世界最高レベルに達している。さらに最新のカーボン技術で作られるカーボンモノコック構造のボディは、安全で堅牢、しかもさまざまな電子機器を搭載しているにもかかわらず、総重量を 1.5t 強におさえている。展示されている車両は、オープンモデルのロードスター。現在、日本で登録されているアヴェンタドール・ロードスターは 3 台のみ。0-100km/h 加速は 3.0 秒、最高速は 350km/h をマークする。

アヴェンタドール LP720-4 50thアニベルサリオ(25日～12月1日まで展示)

ランボルギーニ 50 周年を記念して製作された世界限定 100 台のスペシャルモデル。「アヴェンタドール LP700-4」のエンジンをチューニングし、最高出力を従来の 700PS から 720PS に引き上げた。トランスミッションは 7 速のシングルクラッチ・シーケンシャルトランスミッション「ISR(インディペンデント・シフティング・ロード)」で、4 輪駆動モデルとなる。0-100km/h 加速は 3.0 秒、最高速は 350km/h をマークする。

アヴェンタドール LP720-4 50th アニベルサリオ日本導入第一号車という貴重なモデル。

【ヴィーナスフォート館内では、その他にも様々なイベントを開催しています】

■ VenusFort Illumination 13-14 Night Venus ～Light for wishing 希望の光～

ローマ神話をモチーフとしたイルミネーションが、中世ヨーロッパの街並みを模した館内全体に広がり、幻想的な雰囲気を演出します。今年は新たにメインエントランス周辺のイルミネーションを追加しています。

期間：開催中～2014/3/16(日) ※2014/2/17,18(会期中休館日)を除く
場所：ヴィーナスフォート館内各所
電球数：約37万球
料金：無料



■ SNOW WISH 2013

大人気の降雪イベントを実施いたします。
イルミネーションが点灯する中、音楽と共に真っ白な雪が舞い降ります。

期間：11/30(土)～12/25(水)
時間：平日 15:00/17:00/19:00、
土日祝・12/24(火)・25(水) 13:00/15:00/17:00/19:00
場所：ヴィーナスフォート 2F 噴水広場



■ ヴィーナスアウトレットセール

3F アウトレット限定のセールを実施。本格的な冬に向けて、アウターなどをお得にお買い求めいただけます。

期間：11/22(金)～12/1(日)
場所：ヴィーナスフォート 3F アウトレットショップ



■ ボジョレーヌーヴォーフェア 2013

館内レストランにて、「ジョルジュ デュブッフ ボジョレーヌーヴォー 2013」を期間中、グラス1杯¥300でご提供いたします。ワインに合う¥500以下のおつまみも豊富に取り揃えます。

期間：11/21(木)～ ※無くなり次第終了



本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先

森ビル株式会社 ヴィーナスフォート運営室 プロモーショングループ 担当：荒川
〒135-0064 東京都江東区青海一丁目3番15号 TEL:03-3599-1738 FAX:03-3599-1730

※掲載内容及び各種イベント、日時等は予告無く変更となる可能性がございます。予めご了承下さい。